

ラッカセイ*1

(野菜類、豆類(種実)の登録農薬も使用できる。豆類(未成熟)の登録農薬は使用不可)

ラ
ッ
カ
セ
イ

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	汚 斑 病	褐 斑 病	茎 腐 病	黒 渋 病	白 絹 病	さ び 病	そ う か 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	コ ガ ネ ム シ 類	ハ ダ ニ 類
硫黄粉剤50	無機	M2		-	-		◎		◎							
硫黄粉剤80	無機	M2		-	-		◎		◎							
アフエットFL	アミド	7		1	3					◎	◎		◎	◎		
スミレックス水	ジカルボキシイミド	2		21	4	◎								◎		
ロブラール水	ジカルボキシイミド	2		21	3									◎		
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		7	4		◎	◎	◎			◎		◎		
トップジンM粉DL	ベンゾイミダゾール	1		7	4		◎									
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		7	4		◎	◎	◎			◎				
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		14	3		◎					◎				
ダコニール1000FL	他	M5		14	4		◎									
フロンスайд粉	他	29		45	1					◎						
オンコル粒5	カーバメート	1A		*b	1											幼
フォース粒	ピレスロイド	3A	劇	*b	1											幼
ダイアジノンSLゾ ル	有機リン	1B		*a	1											幼
粘着くん液	天然物由来	-		1	-											◎

*1:ラッカセイ…なんきんまめ、ピーナッツを含む

*a:播種前 *b:播種時
幼:幼虫

ラッカセイ

(野菜類、豆類(種実)の登録農薬も使用できる。豆類(未成熟)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
褐斑病	生育期	1. 連作をさける。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 ダコニール1000(FL) 500倍 トップジンM水和剤 1500～2000倍 ベンレート水和剤 2000～3000倍	
黒渋病	生育期	1. 連作をさける。 2. 発生初期から定期的に次の薬剤のいずれかを散布する。 硫黄粉剤80 3kg/10a トップジンM水和剤 1500～2000倍	
そうか病	生育期	1. 発病畑には連作しない。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 トップジンM水和剤 1500倍 ベンレート水和剤 2000倍	本病による減収は激しいので、初期の防除を徹底する。
アブラムシ類	発生期	・ 次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤* 1000～2000倍	* 豆類(種実)での登録
ハスモンヨトウ	発生期	・ 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ゼンタリー顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤* 1000倍	* 豆類(種実)での登録
コガネムシ類幼虫	播種時	・ 次の薬剤のいずれかを全面土壌混和してから播種する。 オンコル粒剤5 9kg/10a ダイアジノンS Lゾル 50倍(1000/10a) フォース粒剤△ 9kg/10a	△ 播溝土壌混和又は全面土壌混和
ヒョウタンゾウムシ類	発生期	1. イネ科作物を輪作する。 2. 成虫を捕殺する。	サビイロヒョウタンゾウムシ、トビイロヒョウタンゾウムシなど。
ハダニ類	発生初期	・ 発生が認められたら高密度になる前に次の薬剤を5～7日おきに連続散布する。 粘着くん液剤△ 100倍(150～3000/10a)	△ 本剤は残効性がない。
センチュウ類	作付前	・ 土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。	